

義務教育 9 年間を見通した指導体制の
在り方等に関する検討会議（第 3 回）
令和 3 年 6 月 11 日（金）
【参考資料 5】

取組事例

神奈川県横浜市の事例【専科指導加配の活用】

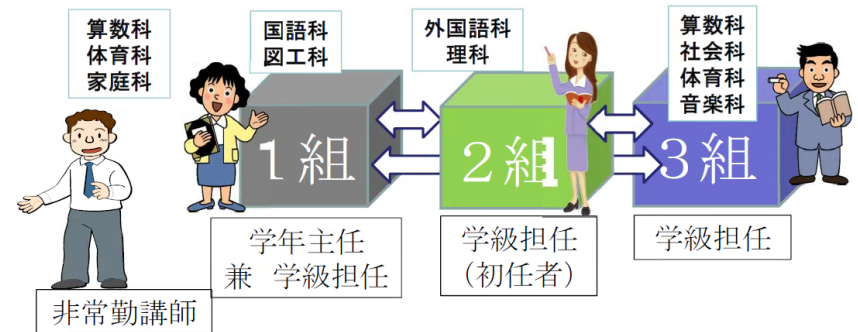
神奈川県横浜市では、大規模校（例えば、1学年3学級の学校）において、学級担任の持ち合いやコマ講師の活用等により、教科担任制を導入している。

これにより、教材準備等が効率化され、授業負担に係る負担が軽減することや、保護者対応・児童への生活指導で問題が発生したときに複数の教員で対応することが可能となること、などの効果が出ている。

教科担任制を導入した学校では、学級担任の空コマが平均すると1日1～2コマ程度生じている。

3 チーム学年経営の仕組み

特別活動、総合的な学習の時間、道徳の授業は学級担任、それ以外の教科はすべて分担



教科分担制を伴ったチーム学年経営の導入

4 学校アンケートの結果から

教職員の負担軽減に関係すると思われる項目



授業準備、子どもや保護者への対応、年休の取得、悩みの共有等、小学校において学級担任が一人で抱えがちな状況や内容に関して、確実に負担が軽減されたと感じている管理職や教職員が増えているのが分かる。

5 導入した学校の実例

業務の効率性と実効性を追求 (1組担任の時間割例)

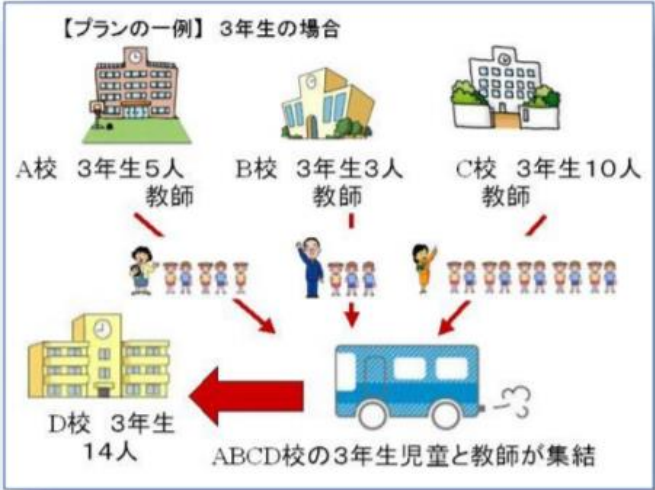
朝組 (Morning Group)	1組担任の時間割 (1 Group Teacher's Schedule)				
	月 (Mon)	火 (Tue)	水 (Wed)	木 (Thu)	金 (Fri)
1校時 (1st Period)	3組 (Group 3)	道徳 (Moral Education)	国語 (Language)	4組 (Group 4)	2組 (Group 2)
2校時 (2nd Period)	国語 (Language)	2組 (Group 2)	4組 (Group 4)		
中休み (Mid-break)					
3校時 (3rd Period)		特活 (Special Activities)	総合 (General)	1組 (Group 1)	
4校時 (4th Period)			総合 (General)	国語 (Language)	3組 (Group 3)
5校時 (5th Period)			1組 (Group 1)	2組 (Group 2)	1組 (Group 1)
6校時 (6th Period)	国語 (Language)	国語 (Language)		3組 (Group 3)	4組 (Group 4)

青色部分が、「空き時間」
月曜日に3時間
火曜日に2時間
木曜日に1時間
金曜日に2時間
合計8時間

※国語、特活、総合、道徳は、学級担任の授業。学級名の箇所は、分担教科である社会科の授業。

兵庫県香美町の事例（複数の小学校の連携による合同授業）

- 香美町にある1学年1学級以下の小学校9校が連携し、地域別に2グループに分かれて合同授業を実施。
- 小規模校における「多人数教育や集団活動が制限され不安」との保護者の声に応えるため、多人数授業やグループ別授業（習熟度別の指導等）を実施。 ※各学年年10回・30時間程度の実施
- 各学校への登校後にスクールバス等を利用して学校間を移動（移動時間10～30分）。 ※移動の調整等は教育委員会

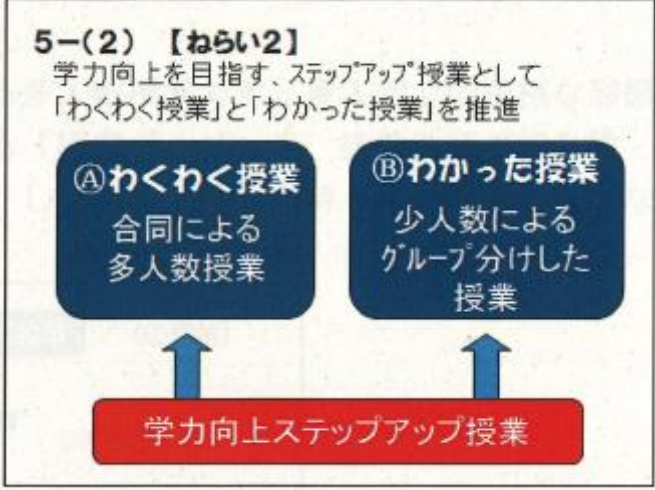


チャレンジプランの時間割例

校時	開始～終了	1年生		4年生	
		教科	児童・教員数	教科	児童・教員数
1時間目	8時45分～ 9時25分	図画工作	児童22名 教員3名	—	—
2時間目	9時30分～ 10時15分	図画工作	児童22名 教員3名	学級活動	児童21名 教員2名
3時間目	10時20分～ 11時05分	算数 (わかった授業)	児童22名 教員5名	音楽 (わくわく授業)	児童21名 教員1名
4時間目	11時30分～ 11時55分	—	—	国語	児童21名 教員2名

4年生の学年が「わくわく授業」(多人数授業)を実施している時間帯に、他方の学年が「わかった授業」(グループ別授業)を実施することで、授業を担当しない4年生の学級担任が1年生の授業を担当することが可能。

※基本的には2つの学年がペアになって実施

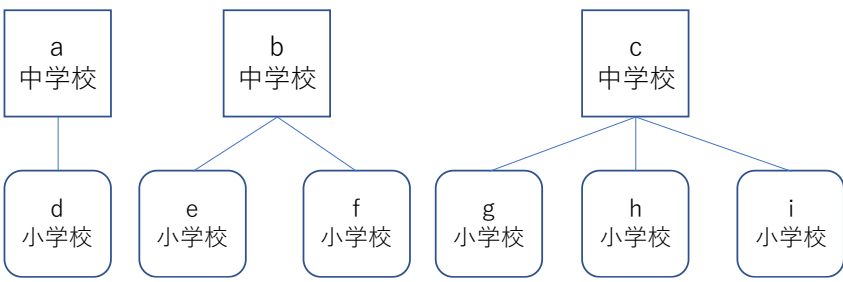


- ### 取組の効果と課題
- <効果>
- 複数の学級の児童を集めた多人数授業を一人の教員が実施することにより、効果的な教員配置を実現(授業を担当しない学級担任が他学年を指導することで、きめ細かな指導を図る)。
 - 若手教員がベテラン教員の指導を見ることにより、若手教員の指導力の向上につながる。
 - 集団活動等の充実や他校との人間関係の構築等により、「中1ギャップ」の解消に資する。
- <課題>
- 学校間の移動や他校との打合せ等が必要となることから、教員に業務負荷が生じる(授業を担当しない学級担任も他学年を指導することから、業務量は必ずしも軽減されていない)。
 - 他校の教員との打合せの時間を確保することが難しく、授業準備の時間が十分に取れない。
 - 特別支援学級や複式学級では、情報共有や学級担任以外の協力等の個別の配慮が必要。

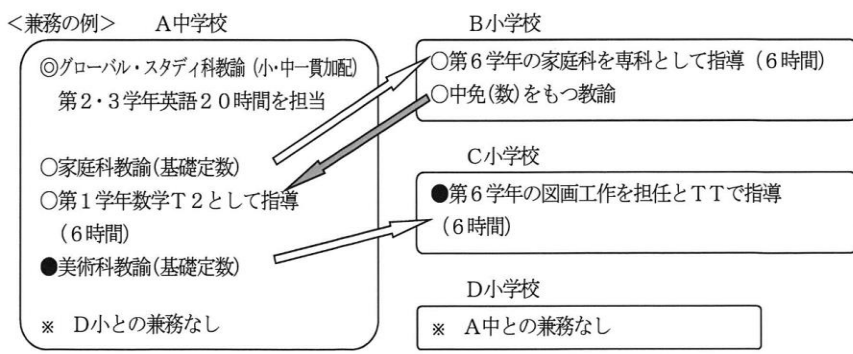
埼玉県さいたま市の事例（グループ化による小中学校の連携）

- 「さいたま市小・中一貫教育」の一環で、中学校1校と小学校1～3校が1のグループを形成（市内全56校の中学校で実施）。
- 小学校の授業を担当する中学校教員に対し、小学校教員の兼務発令を行い、週1時間以上、中学校教員が小学校6年生の授業を担当（小・中一貫加配の配置がある場合は週12時間以上、）。
- 小学校の学級担任等が行う授業に、中学校教員がチーム・ティーチングとして参加するケースが多数。
- 学校間の移動は、徒歩、自転車、自動車など様々であり、中学校教員には学校間の移動時間も考慮した時間割を設定。

小中学校のグループ(イメージ)



兼務教員の授業担当の例



*具体的な兼務内容は、関係小・中学校の校長が協議して決定する。
協議は、中学校長が中心となって進める。

中学校教員の時間割例

小学校	中学校
8:40	1時間目
8:45	8:40
8:50	~
8:55	9:25
9:00	2時間目
9:05	9:30
9:10	~
9:15	10:15
9:20	25分休み
9:25	3時間目
9:30	10:40
9:35	~
9:40	11:25
9:45	4時間目
9:50	11:30
9:55	~
10:00	12:15
10:05	
10:10	
10:15	
10:20	
10:25	
10:30	
10:35	
10:40	
10:45	
10:50	
10:55	
11:00	
11:05	
11:10	
11:15	
11:20	
11:25	
11:30	
11:35	
11:40	
11:45	
11:50	
11:55	
12:00	
12:05	
12:10	
12:15	
12:20	
12:25	
12:30	
12:35	
12:40	
12:45	
12:50	

※網掛け部分が、中学校兼務教員が授業を担当

取組の効果と課題

<効果>

- 小・中学校の教職員の合同研修会等による相互理解により、小学校から中学校までの教育課程を見通した系統的・専門的な指導につながっている。
- 中学校教員は、中学校への入学前から小学校の児童生徒の様子を把握できる。児童も、中学校の教員等との人間関係を構築することができる(「中一ギャップ」の解消にも資する)。

<課題>

- 時間割や指導の方向性等の調整が必要となるが、打合せの時間を確保することは容易ではない。
- 中学校において持ち授業時数の多い教科の担当教員を小学校側に派遣することができないことから、小学校側のニーズに柔軟に対応することができない。
- 小学校教員との打合せや学校間の移動に時間を要するため、中学校教員の業務負担が高まる。また、中学校教員はチーム・ティーチングとして参加するため、小学校教員の業務量は軽減されない。

茨城県水戸市の事例（義務教育学校における小中学校連携）

- 小中一貫教育を推進する観点から、義務教育学校を設立し、9学年を4年、4年、1年の3つの段階に分けた指導体制を構築。
- 1～4年生の国語、算数、生活は学級担任が行うが、その他の教科は教科担任が行う「完全教科担任制」を採用。
- 3年生から9年生までを同じ教員が担当する教科もあり、教科の専門性や系統性を意識した授業実施。

令和元年度の教科担当表

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年
学級担任	A	B	C	D	E	F	G	H	I
国語 (書写)	担任A (Q)	担任B (Q)	担任C (D)	担任D (D)	D (D)	D (D)	K (K)	K (K)	K (K)
社会			L	教頭	L	L	M	M	M
算数 数学	担任A N	担任B N	担任C N	担任D N	E O	B O	E O	B(1/3学期) A(2学期) O	A E O
理科			H	H	教頭	Q	H	H	Q
生活	担任A	担任B							
音楽	F	F	F	F	F	F	F	F	F
図工 美術	R	R	S	S	S	S	S	S	S
体育	I U		I U	I U	G L(社会)	G L(社会)	G I	G I	G I
技術 家庭					C	C	R C	R C	R C
英会話 英語	U W	U W	U W	U W	U W	U W	X W	X W	X W
水戸まごころタイム	グレード主任、副主任、副担任、担任				担任E X U	担任F X U	担任G R	担任H R	担任I M
道徳	担任A	担任B	担任C	担任D	担任E	担任F	担任G	担任H	担任I
学級活動	担任A	担任B	担任C	担任D	担任E	担任F	担任G	担任H	担任I
裁量	担任A	担任B	担任C	担任D	担任E	担任F	担任G	担任H	担任I

※アルファベットは、各教員を表す。

令和元年度の教員の持ち授業時間数

教職員	ベーシックグレード						ミドルグレード						
	1年生 担任	2年生 担任	3年生 担任	4年生 担任	専科	専科	5年生 担任	6年生 担任	7年生 担任	8年生 担任	専科	専科	専科
担当教科	数	数	家	国	国	社	数	音	体	理	技	英	英
総時数	24	28	22	28	19	24	22	20	19	19	15	20	23
月曜 空き時間	1	1	1	1	1	0	2	2	3	1	3	1	0
火曜 空き時間	0	0	1	1	3	3	2	4	1	3	3	2	4
水曜 空き時間	2	0	3	1	4	2	1	2	2	2	1	3	1
木曜 空き時間	2	0	1	0	2	2	2	0	4	3	5	2	1
金曜 空き時間	0	1	2	0	2	0	2	3	2	3	4	3	2

教職員	コンピレーショングレード								
	9年生 担任	専科	小学校 教頭	中学校 教頭	専科	専科	専科	専科	専科
担当教科	体	社	理	社	美	理	学サ	学サ	英
総時数	24	18	5	5	14	12	20	19	27
月曜 空き時間	1	2	4	4	3	3	2	2	1
火曜 空き時間	0	3	5	5	2	3	2	2	0
水曜 空き時間	1	3	5	5	3	3	2	3	0
木曜 空き時間	2	1	6	5	4	5	2	2	0
金曜 空き時間	2	3	5	6	4	4	2	2	0

持ち授業時間数
 1～4学年：25.5コマ
 5～6学年：21.0コマ
 7～9学年：20.7コマ
※学級担任のみ
<参考>
 小学校：24.5コマ
 中学校：18.2コマ
※平成28年度教員統計調査より(授業担任ありのみ)

取組の効果と課題

<効果>

- 小学校低・中学年から中学校までを同一の教員が担当することにより、実験や実技等の留意点を効率よく指導することができるのと同時に、復習や発展的な学習を含めて系統性を意識した授業ができる。
- 教科担任制の導入により、小学校高学年段階における学級担任の持ち授業時数の平準化が図られており、業務負担の軽減に寄与している。

<課題>

- 中学校段階に加えて、小学校段階の教科指導を行う場合には、各学年に応じた新たな教材研究が必要となることや、発達段階に応じて指導方法(スピード等)を柔軟に変える必要が生じる。
- 当該学校の教員が一般の小学校又は中学校に転任した場合に、経験不足(小学校であれば担当教科以外の教科指導、中学校であれば進路指導の経験等)を心配する声がある。

長野県喬木村の事例【ICTを活用した遠隔合同授業の取組】

※人口減少社会におけるICTの活用による教育の質の維持向上に係る実証事業（文部科学省）
（平成27年～平成29年度）

取組の特徴

- 国語では叙述をもとに自分の意見をグループで説明しあったり、算数では面積の求め方をグループで追求し、相手校のグループの意見と比較したり、総合的な学習の時間では、喬木村の魅力をグループに分かれて研究・発表し合うなど、グループ活動を多く実施し、多様な意見に触れ、児童生徒の考えを深める機会を創出
- 遠隔合同授業はパソコン教室を改装し、テレビ会議システムや電子黒板等を常設したアクティブラーニング教室において実施しており、「そこに行けば機材の準備なしに遠隔合同授業ができる」環境を整えている。また、可動式の机やミーティング用の可動式ホワイトボード掲示板など、多様な学びのスタイルに合わせて教室をデザインできるようになっている。



机を移動して自由な学習スタイル@AL教室



遠隔合同授業の様子@第二小学校



遠隔グループ学習の様子



遠隔合同授業の様子@第一小学校

連携体制、実施学年・教科

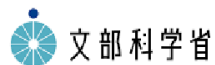


学年	教科
2 学年	生活
3 学年	算数
4 学年	国語
5 学年	総合的な学習の時間
6 学年	外国語活動

目次

全国の学校における 働き方改革事例集

令和3年3月



文部科学省

具体的に改善したい業務がある方へ

業務ごとの
取組

04 [業務ごとに具体的な取組を探す](#)

p.04 ~ 94

オンライン会議の実施、所見の見直しなど、業務ごとに取組を紹介します。

一部の教職員に負担が偏っていることを解消したい方へ

業務分担の
見直し

08 [教科担任業務の分担に関する取組を探す](#)
08 [クラス担任業務の分担に関する取組を探す](#)
08 [校務分掌の分担に関する取組を探す](#)

p.95 ~ 104

担任業務や校務分掌など、負担の偏りが生じやすい業務の見直しについて紹介します。

執務に使える時間が少なくてお困りの方へ

執務時間の
創出

08 [日課表の見直しに関する取組を探す](#)
08 [電話受付時間の制限に関する取組を探す](#)
08 [執務環境の整備に関する取組を探す](#)

p.105 ~ 114

執務時間を生み出すための日課表の組み方や動線の見直しなどについて紹介します。

外部人材の募集・活用にお困りの方へ

外部人材の
募集・活用

08 [人材募集の工夫に関する取組を探す](#)
08 [スクール・サポート・スタッフの1日の働き方イメージを見る](#)

p.115 ~ 118

外部人材にどのような業務を担っていただいているかについて紹介します。

GIGA 端末を活用した校務効率化に取り組みたい方へ

グループウェア
活用マニュアル

119 [グループウェア活用方法を探す](#)

p.119 ~ 219

Google Workspace for Education™、
Microsoft Teams で可能な業務改善ノウハウを紹介します。

好事例提供校のインタビュー

当事例集で扱った取組を実践し成果に繋がっている教育委員会・学校にお話を伺いました。

p.09

事例集の読み方

当事例集の読み方をご紹介します。

p.10

教科担任

専科・教科担任制の導入

小 中 高 特支

取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 専科教員を増やし、担任に時間的ゆとりを持たせるようにした。 複数校を兼務する専科教員制を導入した。
削減時間 ※担当1人あたりの目安	<ul style="list-style-type: none"> 日 30分 × 年 200日 = 100.0 時間/年
事例提供校からの声	導入効果 <ul style="list-style-type: none"> 担任や高学年担当者を中心に空き時間を増やすことができ、各教員が教材研究をする教科数も減ったため、全体の時間外勤務の削減につながった。 複数の教員で児童を見ることにより、学級崩壊のリスクが弱まった。
	課題・対応 <ul style="list-style-type: none"> 時間割の作成が複雑になる。 ▶ 時間割作成を複数人で行うようにした。 所見作成の情報交換が煩雑になる。 ▶ 職務分担を明確にした。初年度は慣れない点もあったが、2年目以降は業務負担を実施前より感じることはなさそうである。

小中間の乗り入れ授業

小 中 高 特支

取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 中学校（義務教育学校後期課程）の教員が小学校の教科担任を受け持った。 または小学校で、中学校音楽や体育の免許保有の教員が中学校の該当教科を担当した。
削減時間 ※担当1人あたりの目安	<ul style="list-style-type: none"> 日 30分 × 年 200日 = 100.0 時間/年 ※中学校担当教員の負担増については中学校内での取組の中で負担軽減について配慮すること
事例提供校からの声	<ul style="list-style-type: none"> 空きコマが少ない小学校の教員に空き時間を生み出すことができた。 授業準備の時間が削減された。

教科担任



担任間での授業交換+専科による教科担任制 1)

小学校の5年生3クラスの担任同士での授業交換により準備が必要な科目数を削減し、英語専科を組み合わせることで空きコマの創出に取り組み北海道室蘭市立旭ヶ丘小学校のお話を伺いました。

どの授業を交換されているのですか？

- A. **5年生の3クラスの担任同士で、理科・社会・音楽・家庭科を交換**しています。A先生は3クラス分の理科を担当し、B先生は3クラス分の社会を担当するという形ですね。
授業の交換と英語専科を組み合わせることで、できるだけ時間を生み出そうとしています。

何をきっかけにこの仕組みを導入されたのですか？

- A. 教材研究の時間を充実させることによる学びの質の向上と授業改善を目指し、5年生から試験導入しました。今後は実施学年を拡大することを検討中です。

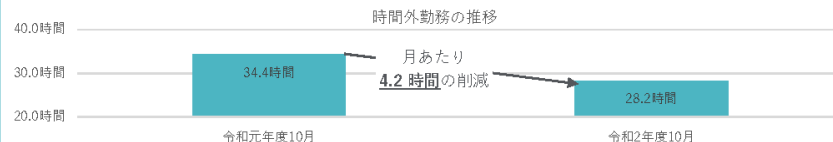
導入されて、先生からはどのような反応がありましたか？

- A. 専科と学年内での教科担任制を組み合わせることで空きコマができることが、時間の削減効果としては一番大きいことでした。ただ、それ以外にも、小学校は準備をしなければならない教科数が多いので、**2教科ないし3教科分の準備の時間が削減**されることで、授業準備の時間を他に割けるようになったのは良かったとのこと。また、担任1人ではなく、複数の先生の子供を見ることが、**それぞれの子供の良かったところや課題について、多様な視点で見られる**ようになり、子供の状況を把握しやすくなったとのことでした。



担任間での授業交換+専科による教科担任制 2)

3~6年生の専科配置と6年生での担任同士の授業交換により一部教科担任制を進める宮城県宮崎市立大宮小学校のお話を伺いました。



どの授業を交換されているのですか？

- A. **6年生の1組体育と2組算数、3組家庭と4組外国語**の交換を行いました。試験的に実施ということで年間ではなく時期を限定して実施しました。加えて、3年生の理科・書写、4年生の理科・書写・音楽、5年生の社会・書写・理科・音楽、6年生の社会・図工・理科・音楽の加配を組み合わせ、学級担任の空き時間確保に繋がっています。

どのような効果、または課題がありましたか？

- A. この取組だけの効果ではありませんが、上記のグラフからも分かるように、時間外勤務の削減に一定繋がっています。教職員からは、**専門性のある質の高い授業を行うことができる、専科教員を含めて、複数の目で児童を支援することができるようになり、担任だけでは気づけない児童の様子を知ることができる、中1ギャップの解消にも繋がる**といった肯定的な意見が多いです。

- A. 時間割作成が難しい、急な日程変更に対応しにくいといった課題はありますが、学年間で早め早めに日程調整を行うことで対応しています。

教科担任



合同授業+教科担任制で1時間空きコマを創出

体育の合同授業と教科担任を組み合わせることで、少なくとも1日1時間の空きコマを確保しているという群馬県東吾妻町立坂上小学校にお話を伺いました。

体育の合同授業はどのように行われているのですか？

A. 本校は1学年5,6人の小規模校です。そのため、授業としても1学年で体育を実施するとうまく回らないという課題がありました。そのため、**低学年・中学年・高学年で体育の授業を実施**することとしました。

A. 安全配慮が特に必要な水泳については担任2人で一緒に見えています。

教科担任はどのように入っているのですか？

A. 特別支援学級と3年生の担任が音楽の免許を持っているので、それぞれ4~6年、1~3年の音楽をお願いします。また、教務主任が3~6年生の理科と3年生の図工を受け持っています。

A. 加えて、加配の先生に3,4年生の外国語、6年生の家庭科と書写を受け持っています。

A. 3年生の担任にとっては1,2年の音楽の授業が増えますが、教務主任と加配の先生によって他のコマ数を減らしているので、全体で見ると、**1日1コマの空き時間を確保**できています。

先生方からはどのような反応がありましたか？

A. やはり、1日1時間空きコマがあると、事務処理などをその時間に終わらせませすし、子供と離れて切り替えをする時間にもなるということで好評です。

A. また、専門的な力のある先生にお願いできるのは有難いという声もあがっています。

教科担任



チーム+1で高学年の教科担任制を実現

担任同士の授業交換と専科を組み合わせることで教科担任制を実現されているという岡山県早島町立早島小学校にお話を伺いました。

イメージ

5年生	教科担任	担任共通	コマ数	6年生	教科担任	担任共通	コマ数
担任A	算数 5h×2学級 道徳 1h×5学級	国語 4h 総合 2h 体育 2~3h 学活 1h	25h	担任H	理科 3h×4学級	国語 4h 図工 1.4h 体育 2.6h 総合 2h 学活 1h	23h
担任B	理科 3h×5学級			担任I	算数 5h×2学級 道徳 1h×2学級		
担任C	音楽 2h×5学級 書写 1h×5学級			担任J	算数 5h×2学級 道徳 1h×2学級		
担任D	社会 3h×5学級			担任K	社会 3h×4学級		
担任E	算数 5h×3学級						
専科F	家庭科 1.7h×5学級 図工 1.4h×5学級	—	15h 学年事務	専科L	音楽 1.4h×4学級 家庭科 1.6h×4学級 書写 1h×4学級	—	16h 学年事務
専科G	外国語 2h×5学級	—	—	—	外国語 2h×4学級	—	18h

どのような背景から教科担任制を導入されたのですか？

A. ①学習指導、②生徒指導、③働き方改革の3つの観点より導入しました。
①学習指導に関しては若手教員の増加による**教科指導力の差をを広げない**こと、②生徒指導に関しては「**学級担任**」から「**学年担任**」へ**意識変革**をし、学級担任との関係性がうまくいかない児童に対してもチームで支援をして、学級担任・児童双方の精神的負担を軽減すること、③働き方改革に関しては、学習指導要領改訂下でも**十分な教材研究の時間を確保**することが挙げられます。

導入されてみて、効果はいかがですか？

A. ①学習指導に関しては、**年度始め単元テストの学級平均が10ポイント以上差がある教科もありましたが、12月時点では大きな差がなくなってきました**。
また、児童アンケートにおいても「いろいろな先生に教えてもらうことはよい」が90%前後、「各教科の授業の内容がよくわかる」も90%超という結果になっています。教職員アンケートにおいても「教科担任制により学習指導の充実につながっている」は100%でした。

A. ②生徒指導に関しても、教職員アンケートにおいて「生徒指導の充実につながっている」が7月時点では83%→12月時点では92%と一定の効果が出ているのではないかと思います。

A. ③働き方改革に関しても、「教材研究の時間の確保につながっている」とする教職員が100%でした。

A. 教職員からは「生徒指導上のこともみんなでやろうという雰囲気が出やすい」「学年単位で多くの先生を目で児童を見ることができて」「教材研究の時間が大幅に削減されている」といった声が聞かれています。

今後の課題は何かありますか？

A. 個別の児童への支援、経験年数が短い先生へのサポート、教室の数が挙げられています。**些細なことでも担任に共有する、習熟度の差がつきやすい算数などは個別児童の習熟度に沿った支援を行う、教科担任制に合わせた教室配置**にするなど、来年度、改善を行っていききたいと思います。

学級担任

全員・チーム担任制の導入

小 中 高 特支

取組内容

- グループ担任制を導入し、学級担任の業務負担を分散した。
- チーム担任制と時差出勤を組合せ、学年を担当する一人の教員が朝の会に出て、そのまま1限目の授業を担当し、別の教員は2限目からの出勤とし、部活動指導をすることとした（中学校）。

削減時間

※担当1人あたりの目安

- 日 20分 × 年 200日 = **66.7** 時間/年

事例提供校からの声

- 時差出勤を導入できた。また、生徒や保護者にチームで関わる雰囲気醸成された。
- 生徒指導などにおいて、児童生徒一人一人の状況把握や情報共有に効果があった。
- ベテランと若手の組み合わせにより、若手教員の成長に大きな成果があった。



グループ担任制の導入

1年生（6クラス）において2クラスを3人で担任するグループ担任制によって、学級担任の業務負担削減や、学年チームとしての生徒指導に繋がっているという新潟県新潟市立内野中学校にお話を伺いました。

イメージ

	9月1週目	9月2週目	9月3週目	9月4週目
ベテラン	1組 HR 担当	2組 HR 担当	—	1組 HR 担当
中堅	2組 HR 担当	—	1組 HR 担当	2組 HR 担当
若手	—	1組 HR 担当	2組 HR 担当	—

なぜ、グループ担任制を導入されようと思ったのですか？

A. 今の1年生は新潟市の少人数配当でいくと35人×7クラスになるのですが、縦割り活動を重視しているので6学級のほうが活動を行いやすいという問題がありました。ただ、6学級にするとその分もちろん1学級の人数が増えますし、**細かく、多面的に生徒を見ていくには複数の目があつたほうがよい**のではということでグループ担任制を導入しました。

A. 他の学年担任制などの例を見ていると、4クラスを5人で担任や3クラスを4人で担任などの例がありますが、授業で入るクラス数などを考えると、**教職員の人数を確保できるのであれば2クラス3人**がよいかと思います、今の編成にしています。

教職員からはどのような反応がありましたか？

A. 1学級の人数が多くなることへの不安が大きく、3人で見れるならいいよねという反応でした。実際やってみると、特に若手からは**ベテランや中堅の先生から学ぶことが多い、生徒指導案件も1人で抱え込まなくてよい**というポジティブな反応が多く出ています。

保護者の反応はいかがですか？

A. 3人も担任の先生がいっちゃうんですかと肯定的な反応でした。小学校の時に、担任の先生とうまくいかなかった経験のあるご家庭は特に**何人もの先生から見てもらえることへの安心感**があったようです。保護者面談も2回行って3人から自由に選べることにしています。1回目と2回目と先生を変えて異なる目からの意見を聞きたいという保護者も多いようです。

学級担任



学年担任制＋教科担任の導入

3年生以上で、学年2クラスを2人で一緒に担任する学年担任制を導入されたという埼玉県所沢市立柳瀬小学校にお話を伺いました。

イメージ

	9月1週目	9月2週目	9月3週目	9月4週目
経験長	1組 HR 担当	2組 HR 担当	1組 HR 担当	2組 HR 担当
経験短	2組 HR 担当	1組 HR 担当	2組 HR 担当	1組 HR 担当

一部の教科は教科担任

なぜ、グループ担任制を導入されようと思ったのですか？

A. 「チーム学校」として組織的に対応していこうというなかで出てきたアイデアです。本校は2クラスしかないため、2人の担任で組んで、**HRは交代で行い、理科はA先生が両方のクラスを担当、社会はB先生が両方のクラスを担当**という形で行っています。また、一部の教科に関しては**単元ごとに担当を変えたり**しています。例えば、国語のAという教材に関してはA先生が両方のクラスを担当するといった形です。

A. あわせて、子供たちも常に固定したクラスでなく、**授業によっては半分クラスを入れ替えて行う**こともあります。教職員も子供も「クラス」ではなく「学年」としての意識を高められるように工夫しています。

どのような効果がありましたか？

A. やはり、教材研究の負担減に繋がっています。加えて、体育を合同で行うことで、**専門性がある教員が中心になって、片方の教員はそこから学ぶ**など、教職員の勉強にも繋がっているかなと思います。

若手にとって色々な教科の授業を行う機会が少なくなるという懸念もあるかと思いますが、どうされていますか？

A. もちろん、小学校なので全教科でできる必要はある程度ありますが、今後、5,6年生の教科担任制も進んでいくと思いますし、専門性を磨いていくことは非常に重要だと思っています。

ベテランの先生にとっては負担増加になるのではという懸念はありませんでしたか？

A. 確かに、若手の面倒を見ないといけないといった意識は高まるのかなと思いますが、ある意味それが狙いでもあります。**自分のクラスだけが良ければいい、ではなくて、学年全体、学校全体へ視点を広げてもらいたい**と思っています。

保護者との懇談会や個人面談はどのような形で行われているのですか？

A. 懇談会は2クラス合同で行っています。**2人で対応できるので、心強く、精神的な負担も下がっている**ようです。個人面談は1回目は全員と行って、2回目は希望制にしています。**2回目は希望する人が少なければ、できるだけ2人の担任が両方出席**するようにしていますし、担任ではない教員との面談も可能にしています。

保護者からの反応はいかがでしたか？

A. **多くの目に見守ってもらえるんだという期待感**が大きかったように思います。学級間の差がなくなることへの賛同も大きかったです。

A. また、あわせて、担任だけでなく、**誰にでも相談してください**というのをメッセージとして発信しました。どうしても、保護者としては、言にくいけど担任にまず言わないとダメだよという意識があると思うのですが、今では、相談しやすい先生にまずは相談してもらおうという形にできています。